

報 告 1

草津市無料送迎バス活用実証事業の実施状況および今後の方向性について

草津市無料送迎バス活用実証事業の実施状況および今後の方向性について、別紙のとおり報告します。

草津市無料送迎バス活用実証事業の実施状況および今後の方向性について

草津市無料送迎バス活用実証事業については、令和7年5月から3月末までの期間、草津北部地域から主要施設を經由し、淡海医療センターまでの移動手段として実証事業を実施しております。本事業については、12月末までを一定の評価期間とし、利用者数が目標の50%以下であるため、3月末で事業を終了、本格運行への移行は行わないものとします。

1. 評価基準

3つの項目および5つの評価基準・目標から評価を行います。

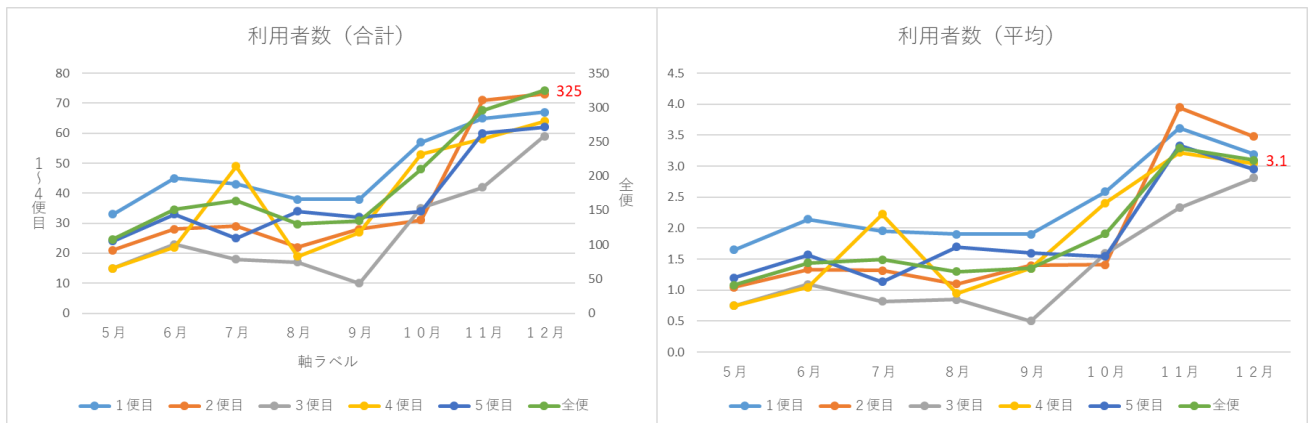
項目	評価基準・目標
利用者数	①淡海医療センターを目的に利用(5名/便) ②淡海医療センター以外を目的に利用(2名/便)
路線バス等への影響	③上笠～淡海医療センター停留所間の利用者数※ ④アンケート結果(運行前の目的地への移動手段)
利用者の声	⑤アンケート結果(継続希望者)

※近江鉄道路線バスと重複している区間のため個別に計測

2. 利用状況

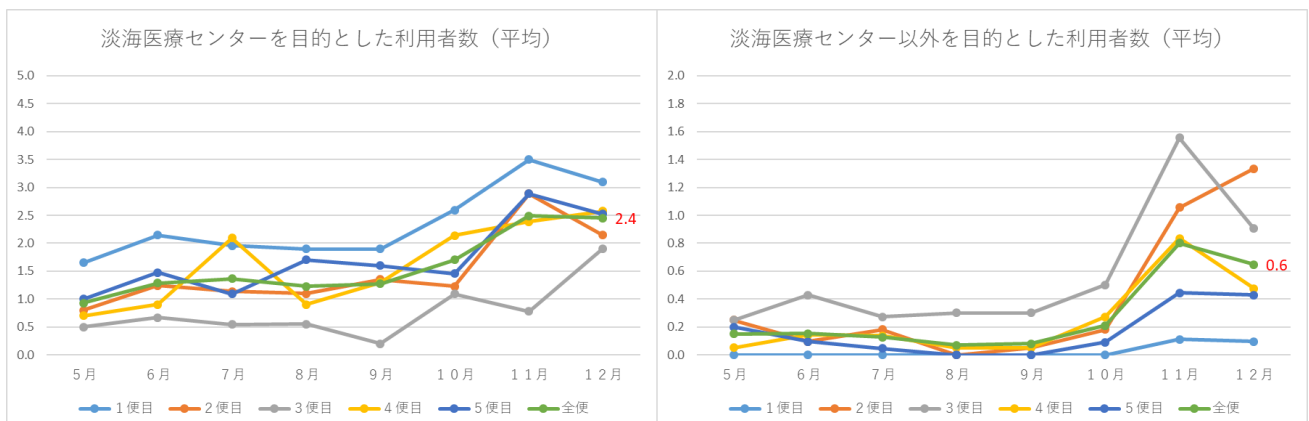
【利用者数】

運行開始から9月までは月間200名以下(平均2名以下)の利用であったため、9月16日から病院玄関で利用促進のチラシ配布を開始し、12月末現在では月間325名(平均3.1名)の利用があります。



【淡海医療センター(以外)を目的とした利用者数(平均)】 <評価基準①、②>

淡海医療センターを目的とした利用は、**目標5名/便に対して2.4名/便(達成率48%)**、淡海医療センター以外を目的とした利用は、**目標2名/便に対して0.6名/便(達成率30%)**でした。



【各停留所の利用者数】

◎利用の多かった停留所

淡海医療センターでの乗降が最も多く、往路では全体の82.7%の方が降車を、復路では全体の89.2%の方が乗車をされていました。

順位	往路		復路	
	乗車停留所(人数)	降車停留所(人数)	乗車停留所(人数)	降車停留所(人数)
1	フレンド마트上笠店(160)	淡海医療センター(751)	淡海医療センター(545)	フレンド마트上笠店(129)
2	野村八丁目(135)	新平井橋(55)	フレンド마트上笠店(15)	野村八丁目(107)
3	片岡(85)	平井会館(26)	平井会館(15)	上笠(48)
4	常盤まちづくりセンター(83)	マックスパリュ駒井沢(14)	野村八丁目(9)	新平井橋(48)
5	マックスパリュ駒井沢(80)	上笠郵便局(14)	上笠郵便局(8) マックスパリュ駒井沢(8)	平井会館(45)

◎上笠～淡海医療センター停留所間の利用者数 <評価基準③>

往路が492便中40名で1便あたり0.08名(利用の4.4%)、復路が328便中48名で1便あたり0.15名(利用の7.8%)と、ほとんど利用がありませんでした。

3. アンケート結果

【アンケート概要】

配布先:①淡海医療センター正面玄関、②実証事業バス車内、③沿線居住者400名

有効回答数:238名

【アンケート結果(一部抜粋)】

利用者の86%が70歳以上であり、その内63.1%が以前より公共交通機関で目的地まで移動されていた方でした。来院者の14.6%が実証事業を利用したことがあると回答し、利用したことが無い場合でも58.8%が実証事業を認知していました。「無料であること」よりも「家の近くに停留所があること」が利用の動機に繋がっていました。有料無料に関わらず88.1%の方が運行継続を希望されています。

全体向け		
質問1-①	年齢	全体では70.1%が60歳以上 乗客では86%が70歳以上
質問☆	実証事業の利用の有無	来院者の14.6%が利用有 沿線居住者の2.7%が利用有
質問6-①	運賃	全体では88.1%が有料無料に関わらず運行継続を希望 乗客では100%が同様に継続を希望<評価基準⑤>
実証事業を利用したことがある方向け		
質問2-②	利用した理由	「家の近くに停留所があったから」が最も多く、次いで「無料だから」、「利用したい時間帯に運行していたから」が多い
質問3	運行前の目的地への移動手段	63.1%が公共交通機関で目的地まで移動<評価基準④> 19.4%が自家用車からの転換
実証事業を利用したことがない方向け		
質問5-①	認知状況	来院者の58.8%、沿線居住者の40.7%が認知している
質問5-②	利用しなかった理由	来院者では「家の近くに停留所がなかったから」が、沿線居住者では「利用する必要がなかったから」が最も多い

4. 送迎バスや公共交通を取り巻く課題

移動のニーズは、便数、ダイヤ、ルート、定時性など多岐に渡り、物価高騰などが続く中でバスの維持は非常に困難な状況にあります。一方、民間事業者は、輸送が本来の事業ではないため、例えば病院であれば、送迎バスを運行すべきか、医療機器へ投資すべきかといった判断も必要になります。

【草津市の課題】

- ・市民の移動手段の維持確保
- ・公共交通ネットワークの効率化

【民間事業者の課題】

- ・従業員や施設利用者の移動手段確保（送迎バス車両や運転手の維持）
- ・送迎バスの効率的な運用（通勤時間外の活用や既存交通への転換など）
- ・運行経費の削減（投資先の選択）

【交通事業者】

- ・担い手の確保
- ・運行経費の削減

5. 事業評価および今後の方向性

【事業評価】

一定数の利用があり、運行継続を望む声は多いものの、利用者数は評価基準・目標を達成しませんでした。

項目	評価基準・目標	結果
利用者数	①淡海医療センターの利用（5名/便）	①2.4名/便
	②淡海医療センター以外の利用（2名/便）	②0.6名/便
路線バス等への影響	③上笠～淡海医療センター間の利用者※	③ほとんど無し
	④アンケート結果（運行前の移動手段）	④63.1%が以前から公共交通を利用
利用者の声	⑤アンケート結果（継続希望者）	⑤乗客の100%が継続希望

【今後の方向性】

事業評価の結果を踏まえ、**本事業は年度末で終了し、本格運行への移行はいたしません。**

実証事業によって、主に常盤・笠縫・笠縫東・山田地域の送迎バス需要や、移動ニーズを把握することが出来たので、これら成果と、草津市、民間事業者、交通事業者が抱える課題を組み合わせながら、課題解決に向け、**民間送迎バスの活用を、民間事業者、交通事業者とともに今後も推進・検討を進めてまいります。**

